



2024年5月8日

各位

会社名 タキロンシーアイ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 福田 祐 士  
(コード番号 4215 東証プライム)  
問合せ先 経営企画部長 金原 一 弘  
(TEL 03-6711-3708)

### 中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2023年5月8日開催の取締役会において、中期経営計画「Go Beyond 2026 革新」を策定いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

1. 対象期間  
2025年3月期～2027年3月期までの3カ年
2. 中期経営計画の基本方針
  - ① 安定的に連結純利益 60 億円以上を稼ぐ
  - ② 将来 100 億円を稼ぐための構造改革の実行
3. 主要施策
  - 1) グループ経営の最適化
  - 2) 新製品・新事業の創出
  - 3) 現場力の徹底的な強化
  - 4) 海外ビジネスの拡大
  - 5) M&A の加速

詳細については添付資料をご参照ください。

以上

タキロンシーアイ株式会社 中期経営計画  
**Go Beyond 2026 革新**

昨日までの発想を  
会社の当たり前を  
お客さまの期待を

越えてゆく。

**2024—2026**



タキロンシーアイは、公益法人日本カヌー連盟のオフィシャルスポンサーです

 **中期経営計画**  
**Go Beyond 2026 革新 P 3**

- **中期経営計画 ハイライト P 4**
- 1 企業理念 P 5**
- 2 定量計画 P 7**
- 3 組織体制 P 17**
- 4 事業ポートフォリオ P 19**
- 5 配当方針 P 21**
- 6 財務戦略/成長投資戦略 P 23**
- 7 サステナビリティ P 26**

# ● 中期経営計画Go Beyond 2026 革新



タキロンシーアイは、  
公益法人日本カヌー連盟のオフィシャルスポンサーです

## 企業価値向上



### 定量目標

1. 安定的に連結純利益 **60** 億円以上を稼ぐ
2. 将来 **100** 億円を稼ぐための構造改革の実行

### 財務/成長投資

- ✓ 営業CF **370** 億円を構造改革のための成長投資と配当金に
- ✓ 特別投資枠 **400** 億円で **M&A・更なる成長投資を加速化**
- ✓ 維持更新を減らし **成長投資にシフト**

### 配当方針

- ✓ 配当性向 **40** %目安
- ✓ 下限配当 **24** 円/株

### 事業ポートフォリオ

- ✓ **ROIC** を指標として成長分野へ経営資源投入
- ✓ FY2026に **ROIC 7.0** %以上を目指す

### 組織体制

- 「全体最適・シナジー」
  - 「パフォーマンス最大化」
  - 「横串機能による横展開の促進」
- によりパフォーマンス最大化を目指す

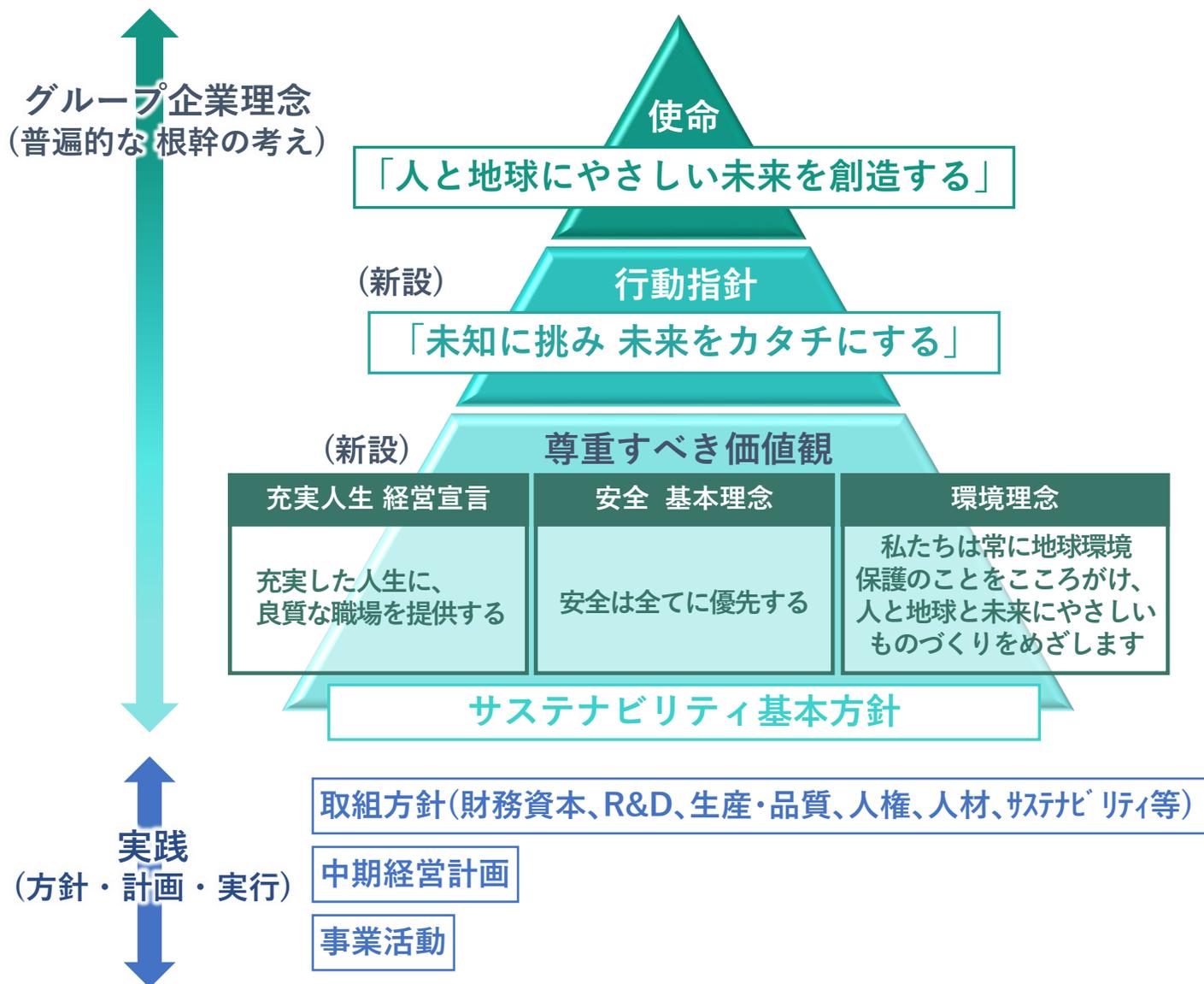
### サステナビリティ

- 「気候変動」
  - 「ダイバーシティ」
- を重点テーマに設定  
社会課題の解決に取り組む

### 企業理念

- 「行動指針」
  - 「尊重すべき価値観」
- をグループ企業理念に新設  
グループ一丸となって挑戦し  
続け、中期経営計画を推進

# 1 企業理念



新たに「行動指針」「尊重すべき価値観」を策定。  
当社グループで働く全員で共有し、全社一丸と  
なって中期経営計画を推進する

■ 企業メッセージ  
「今日を支える、明日を変える。」

■ アクション・スローガン  
Go Beyond 革新

昨日までの発想を越えてゆこう  
会社の当たり前を越えてゆこう  
お客さまの期待を越えてゆこう

# 2 定量計画

## 基本方針

- ①安定的に連結純利益60億円以上を稼ぐ
- ②将来100億円を稼ぐための構造改革の実行

## 主要施策

### 1 グループ経営の最適化

- 赤字グループ会社の撲滅
- 全体最適を見据えた生産体制の再編
- 関係会社の個社別成長戦略の実行

### 2 新製品・新事業の創出

- 新総合研究所設立による技術力の集約と重点注力事業の強化・育成
- 高付加価値分野への研究ポートフォリオの展開と経営資源投入
- 顧客ニーズを超える商品開発に向けた新技術の創出・導入
- 戦略的な知財獲得による競争優位性の確立

### 3 現場力の徹底的な強化

- 製造コスト低減のあくなき追求
- 他社に打ち勝つ営業の実践
- 効率化・省力化の推進(DX含む)
- 戦略的な原材料購買体制の構築

### 4 海外ビジネスの拡大

- 北米・欧州エリアへの販売強化と収益回復
- 中国エリアでの現地販売強化とアジアエリアの拡販・シェア奪回
- 本社支援による海外駐在促進による活動強化

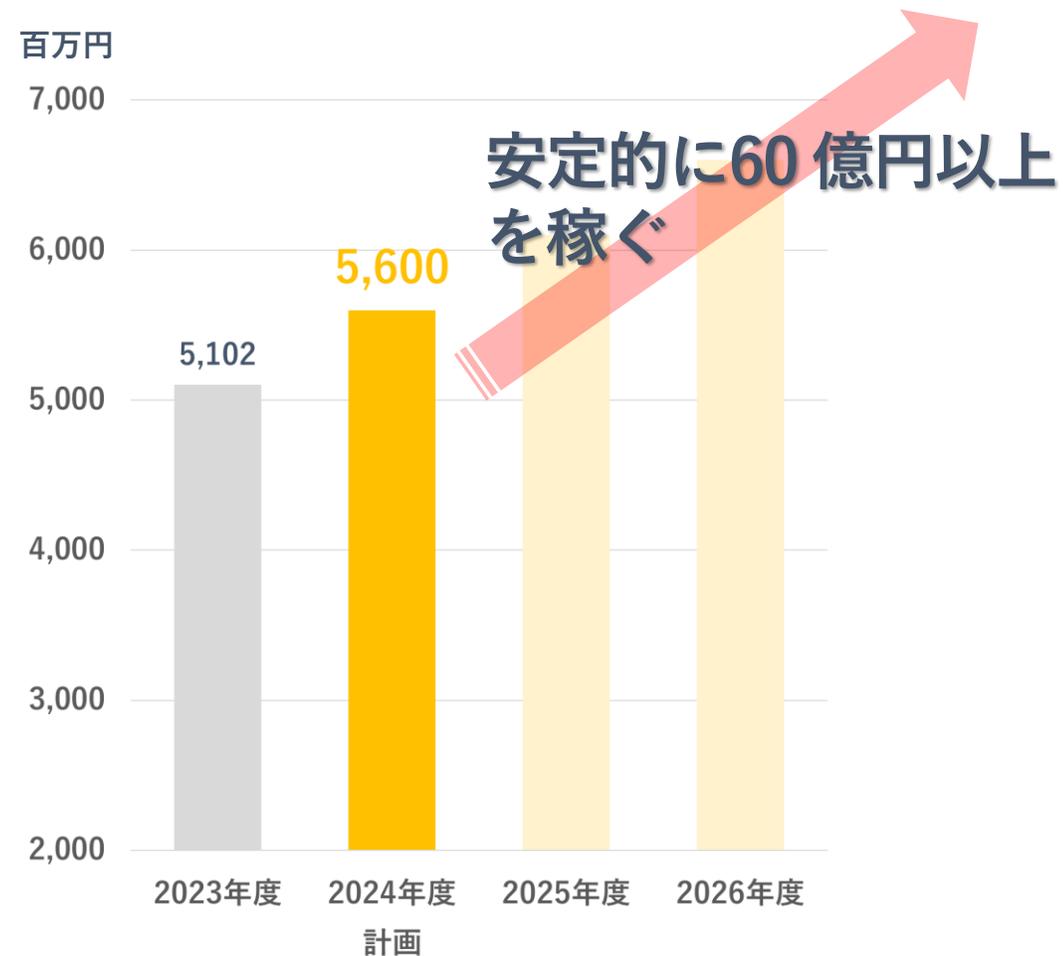
### 5 M&Aの加速

- 石化メーカー事業再編対応および残存者利益の獲得を追求したM&A
- 技術の獲得、海外事業拡大および販売拡大を追求したM&A

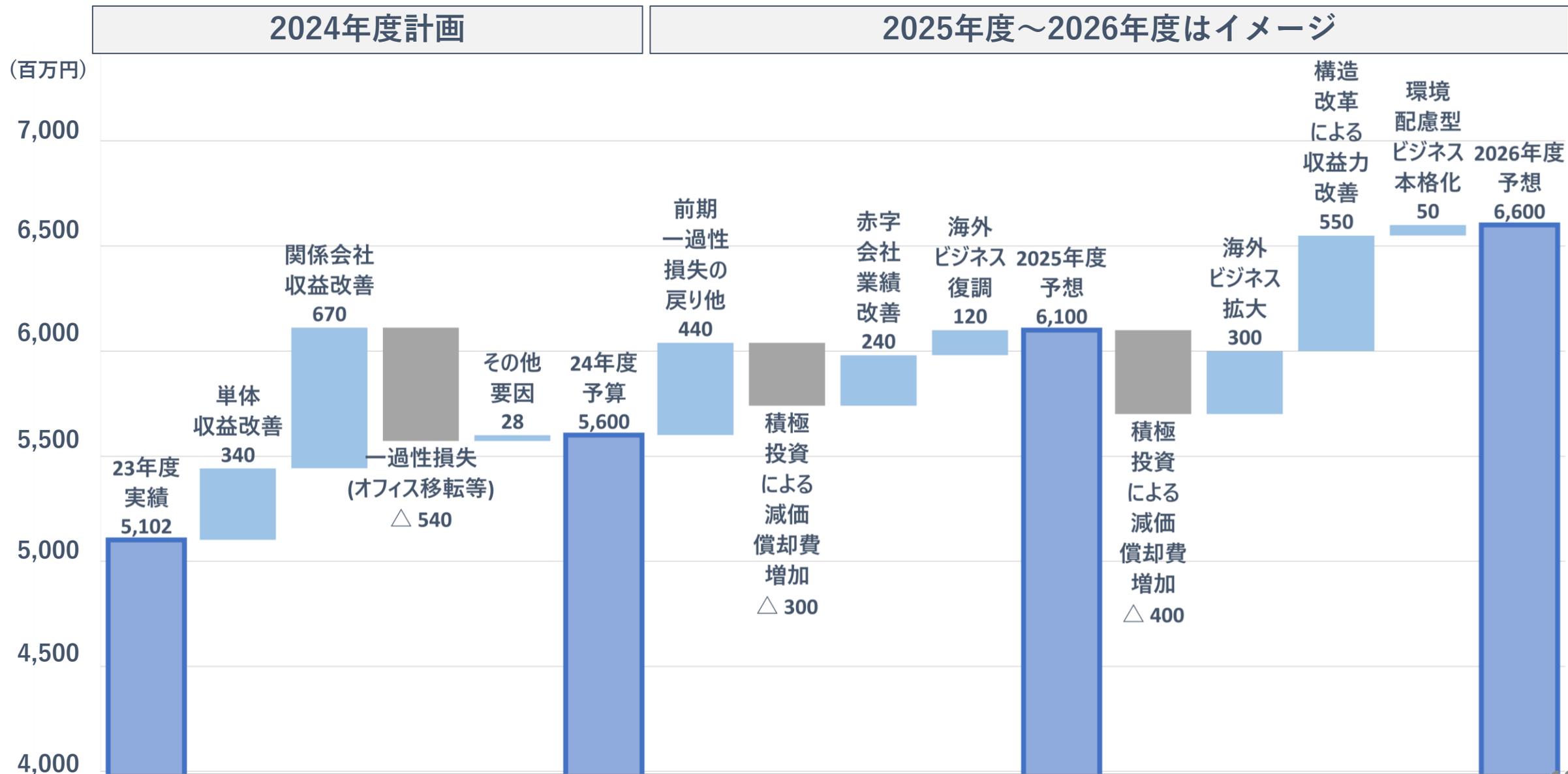
## ■ 経営指標(グループ全体)

	今期計画	
	FY2024	対FY2023
連結売上高	1,450億円	+74億円
連結営業利益	76億円	+14億円
率	5.2%	0.7%
連結経常利益	76億円	+11億円
連結純利益	56億円	+5億円
平均ROIC	5.0%以上	+0.5%

## ■ 連結純利益(グループ全体)



# 2 定量計画 経営指標\_FY2026純利益イメージ



## ■ 営業利益および純利益(セグメント別)

百万円

	営業利益		純利益	
	FY2023 実績	FY2024 計画	FY2023 実績	FY2024 計画
建築資材・シビル	4,059	4,450	2,943	3,028
高機能材	1,526	2,000	1,168	1,729
フィルム	505	1,750	614	1,551
新事業推進部	54	179	-35	56
オフィス移転費用		-772		-536
本社口その他	84	-7	412	-228
<b>タキロンシーアイ 連結合計</b>	<b>6,228</b>	<b>7,600</b>	<b>5,102</b>	<b>5,600</b>

### 主要施策等

- 三和サインワークスの新ビジネスモデルの横展開
- BONLEX EUROPE黒字化、建装事業の北米販売拡大
- 床材の高付加価値化
- タキロンシーアイシビルと一体化した販売・開発体制

- 半導体市場回復需要を取り込むための増産体制構築
- タキロン・ローランドの事業拡大

- 農POの海外販売加速
- タキロンシーアイサプライの統合シナジー取込
- Bonset Americaの北米市場拡販

- モータシェア拡大のための生産体制構築
- ナノ材料の事業拡大

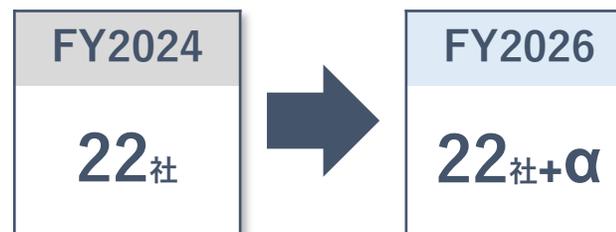
- M&A推進による既存事業極大
- 徹底的な製造コストダウン

## 赤字グループ会社の撲滅

	FY2023 実績	FY2024 計画	FY2026 イメージ
赤字会社	3社	2社	<u>0</u> 社

## 関係会社の個社別成長戦略の実行による収益力向上

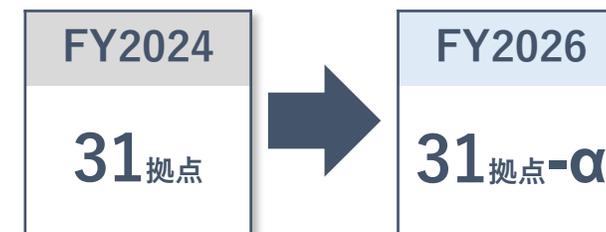
### グループ会社数推移



グループ会社経営統合は概ね完了

## 全体最適を見据えた生産体制の再編

### 生産拠点数推移



国内27拠点  
海外 4拠点

## 赤字会社ゼロを目指す

- BONLEX EUROPE : 北米エリア販売強化およびコストダウン
- Bonset America : 環境対応型製品の開発・拡販、納期短縮化
- マーベリックパートナーズ : リサイクルコンパウンド量産体制の構築と開発案件の鍋入れ
- 全般 : 低採算グループ会社の収益基盤改善

## 守りから攻めへのシフト

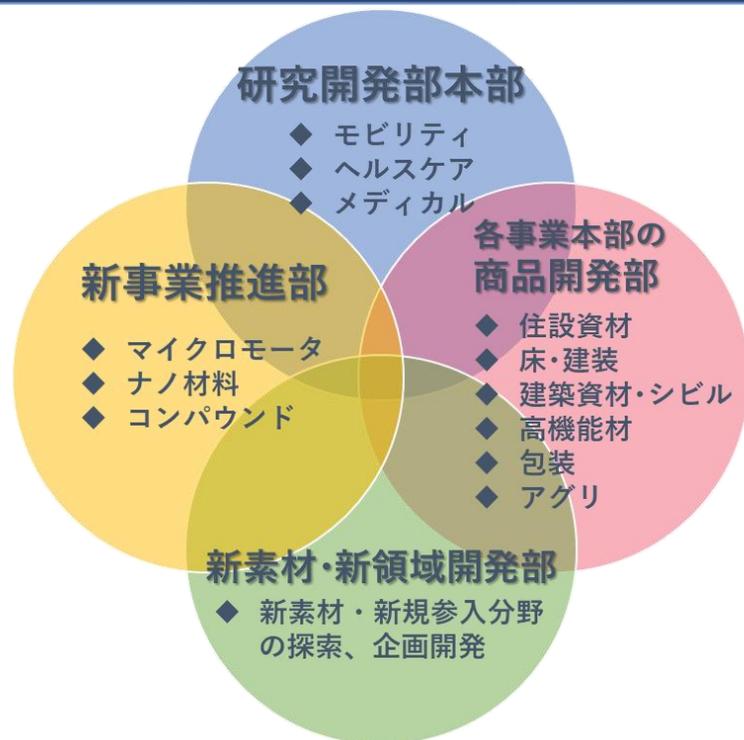
中計3カ年は、関係会社における個社別成長戦略の展開・実行をする攻めのステージ。個社別の事業強化に資する縦横展開による収益力向上を図る。

## 更なる全体最適化を推進

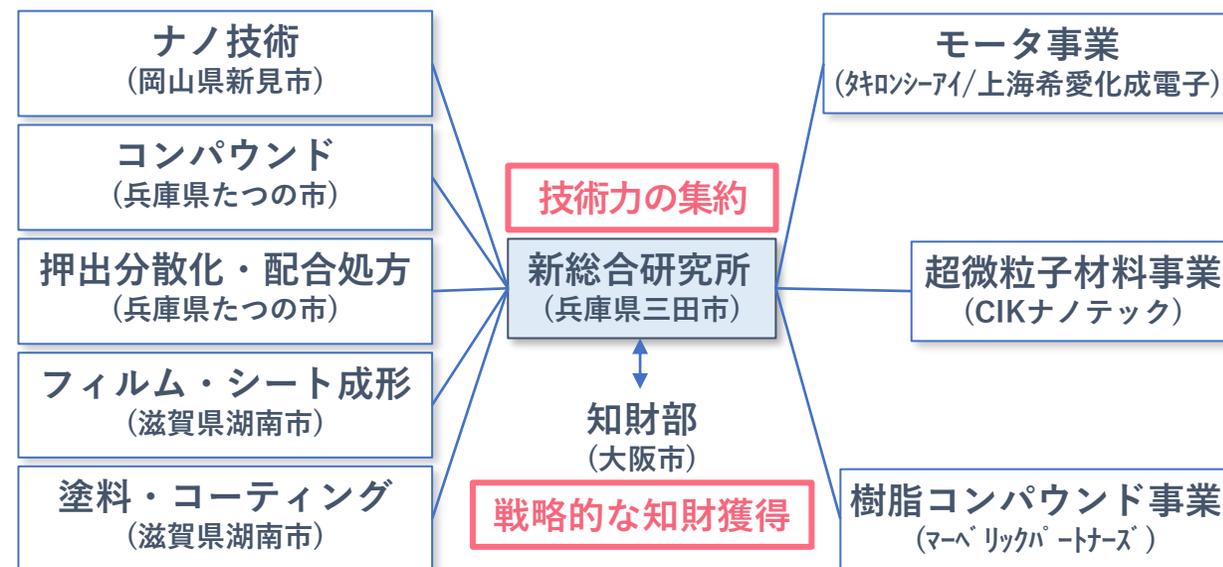
- 小規模生産拠点の統廃合 (三和サインワークス埼玉など)
- 生産販売体制の一元化 (タキロンシーアイシビルなど)
- 成長・注力分野の効率的生産体制構築 (プレートなど)

## 研究開発体制の整備・強化

新事業推進部および新素材・新領域開発部設立による新製品・新事業の創出・育成、加速化



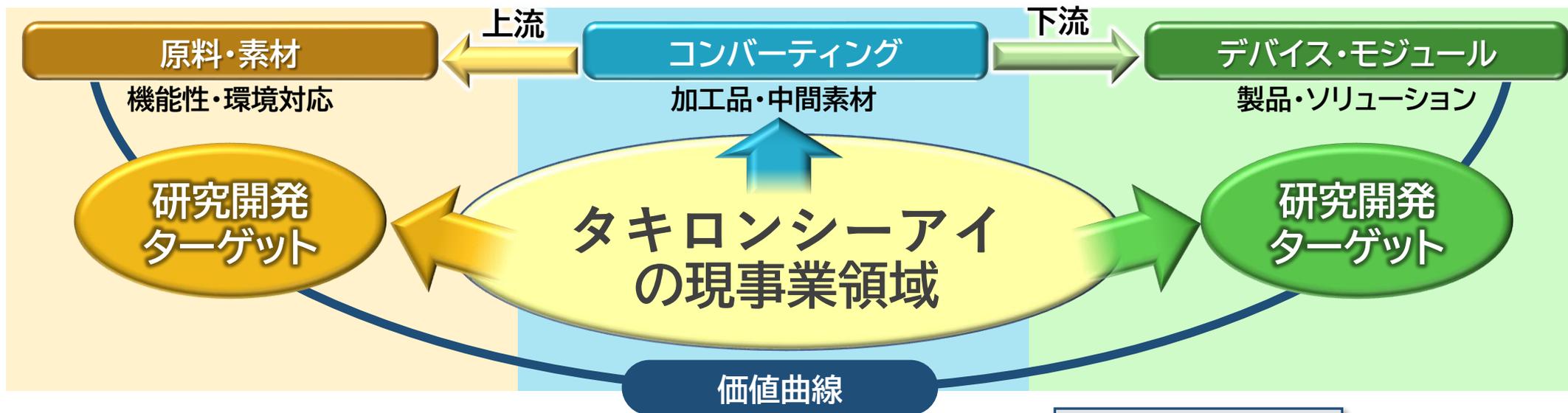
新総合研究所設立による技術力の集約と重点注力事業の強化・育成



マーケットインによる開発の更なる強化・徹底  
(売上に早期貢献できる新製品の提供)

## 高付加価値分野へのシフト

当社の現事業領域である加工品・中間素材の開発強化(環境対応、機能化)を行うと同時に、付加価値の高い上流(高付加価値素材)、下流(デバイス等)の研究開発・製品開発に注力する



### 【研究開発に注力する事業ドメインの選定】

事業ドメイン	注力のポイント	SDGsとの関係
包材・容器	環境対応への市場の変化をとらえた開発	12 持続可能な消費と生産 (無限のシンボル) 13 気候変動への対応 (地球と雲のシンボル)
モビリティ	車体軽量化、EV普及の要求性能変化への対応	9 産業とイノベーション (工場とライトニングボルト) 12 持続可能な消費と生産 (無限のシンボル) 13 気候変動への対応 (地球と雲のシンボル)
ヘルスケア メディカル	予防医療/パーソナル医療/医療×IoTへの対応	3 持続可能な健康と長寿 (心臓と脈波) 9 産業とイノベーション (工場とライトニングボルト)
ナノ材料	ナノテック事業の強化、新たなコア技術育成の研究	9 産業とイノベーション (工場とライトニングボルト) 17 パートナーシップによる持続可能な開発 (人々のネットワーク)
機能フィルム (エレクトロニクス)	半導体分野、通信技術の進化への対応	7 持続可能なエネルギー (太陽) 9 産業とイノベーション (工場とライトニングボルト) 17 パートナーシップによる持続可能な開発 (人々のネットワーク)



包材・容器

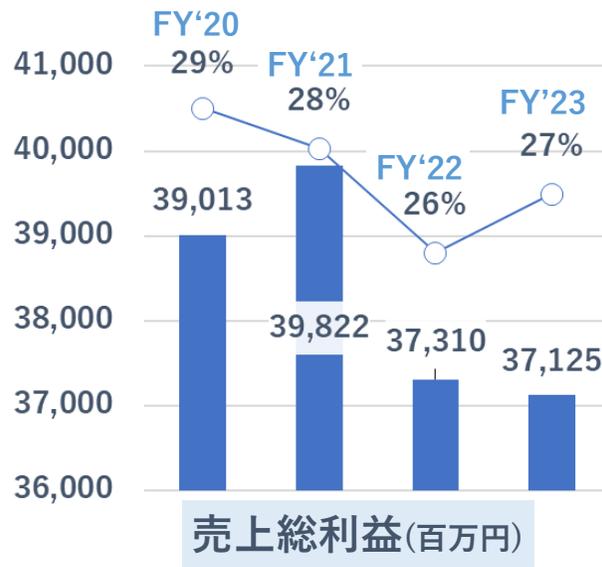
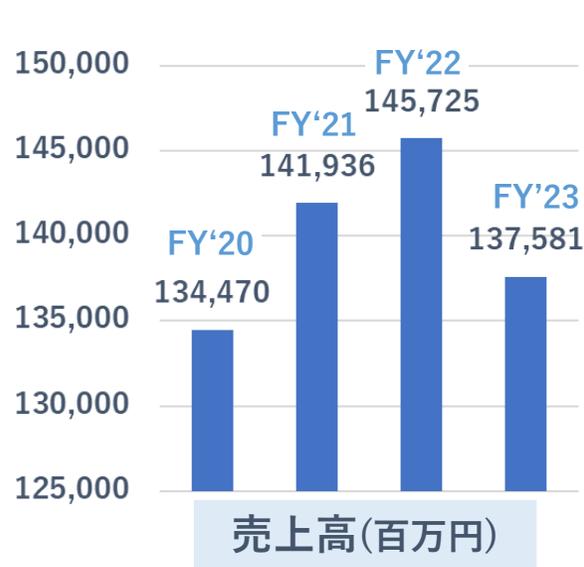
ポリエチレン単一素材からつくるモノマテリアル包装用ジッパー「MML-13E」を開発

「ポリカーボネート製低炭素型フロント樹脂ウインドウ」  
LEXUS初の水素エンジンを搭載したROV (Recreational Off highway Vehicleの略) のお客様向け体験プログラムに使用されるクルマに採用されました。



モビリティ

# 2 定量計画 主要施策3\_現場力の強化



- FY2023は売上高と売上総利益ともに減少も、売上総利益率は上昇。原材料価格高騰分の製品価格転嫁が浸透した事が要因。
- 一方、FY2021以前の売上総利益率には戻らず、電力等のユーティリティ上昇分に対する製品価格転嫁が遅れている。
- 現状維持の意識が、後手に回る実行アクションを招いており、稼ぐ力が低下している。

✓ 各現場で現状スタイルを超えていく意識を高め、稼ぐ力を強化する。

## 営業現場の強化

- 代理店任せ営業からの脱却
- ユーザーへ直接訴求する粘り強く、きめ細やかな営業



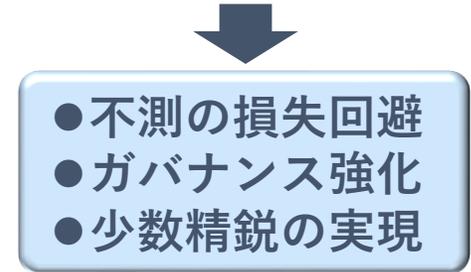
## 製造現場の強化

- 製造コスト削減のあくなき追及による他社に売り負けないコストの実現
- 歩留り向上、DXも活用した合理化・自動化による生産性向上の追求



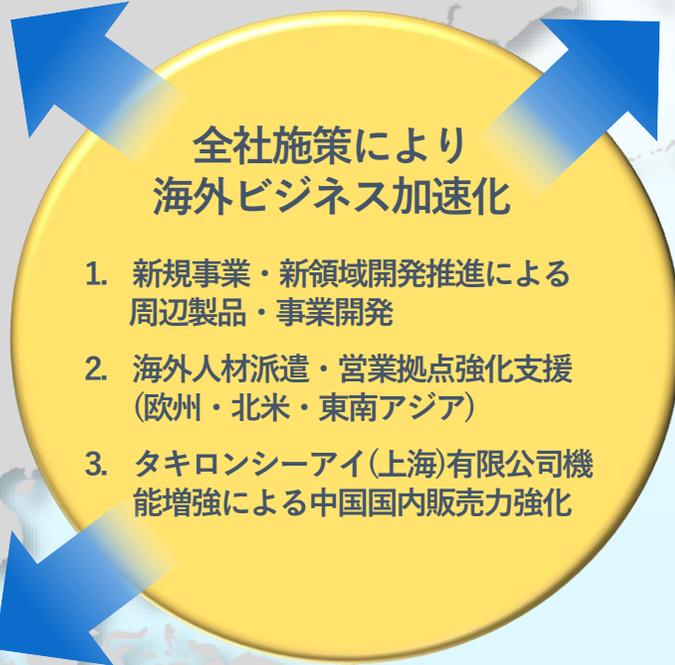
## 職能現場の強化

- 専門性を追求したスペシャリスト集団の育成
- 戦略的な原材料購買体制の構築
- DX含む効率化・省力化の推進



欧州	
主力製品	方針
ボンレックス	成熟した欧州地域へは環境対応製品の投入及び特徴ある製品開発により更に市場を開拓していく。
シュリンクフィルム	
ジッパーテープ	
モータ	

北米	
主力製品	方針
ベルビアン	北米は今後も拡大をし続ける最大の市場と位置づけ、現地販売力の強化、現地生産能力の増強をおこなっていく
ボンレックス	
シュリンクフィルム	
ジッパーテープ	
モータ	



中国・韓国・東南アジア	
主力製品	方針
半導体用プレート	今後も成長が見込める中国を中心とした東南アジア地域へは、当社製品のポテンシャルは高く積極的な市場攻勢をかける。
農業用フィルム	
モータ	
ハイドロタイト	



# 3 組織体制

## 目的・狙い

- 全体最適・シナジーを考慮した組織の再配置・再編成
- 機能統一・大括り化によるパフォーマンス最大化・効率化
- 横串機能によるノウハウや再発防止策等の横展開の促進
- 管理組織の機能別再編成

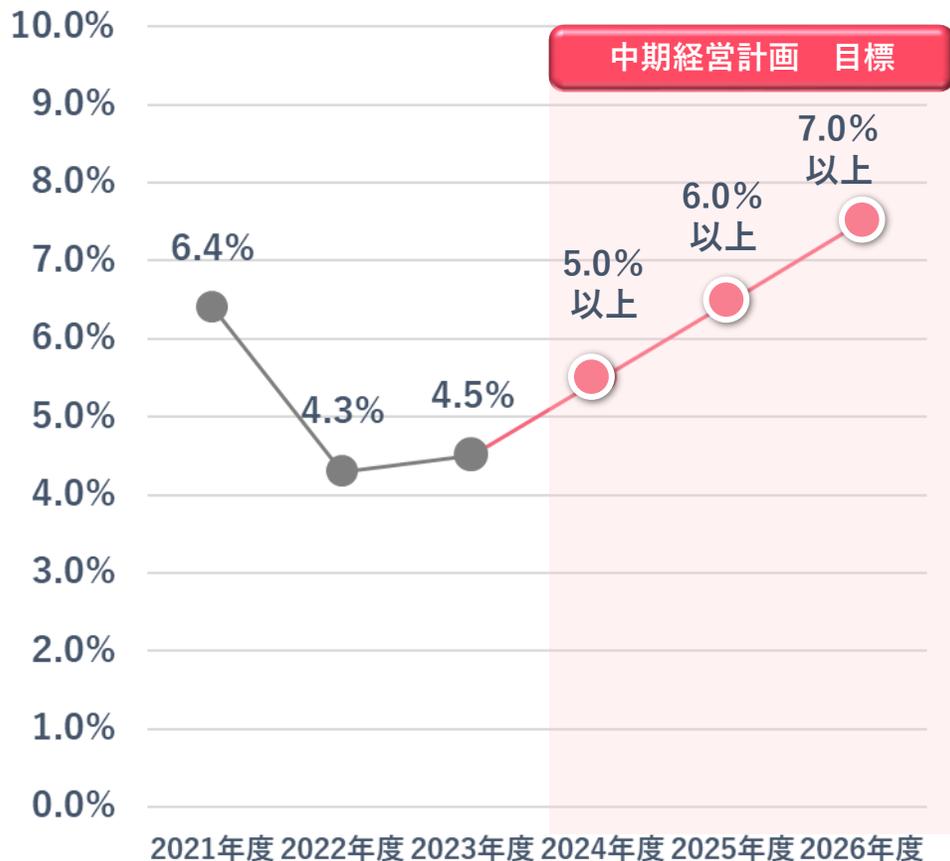
### 事業本部

### 事業本部以外

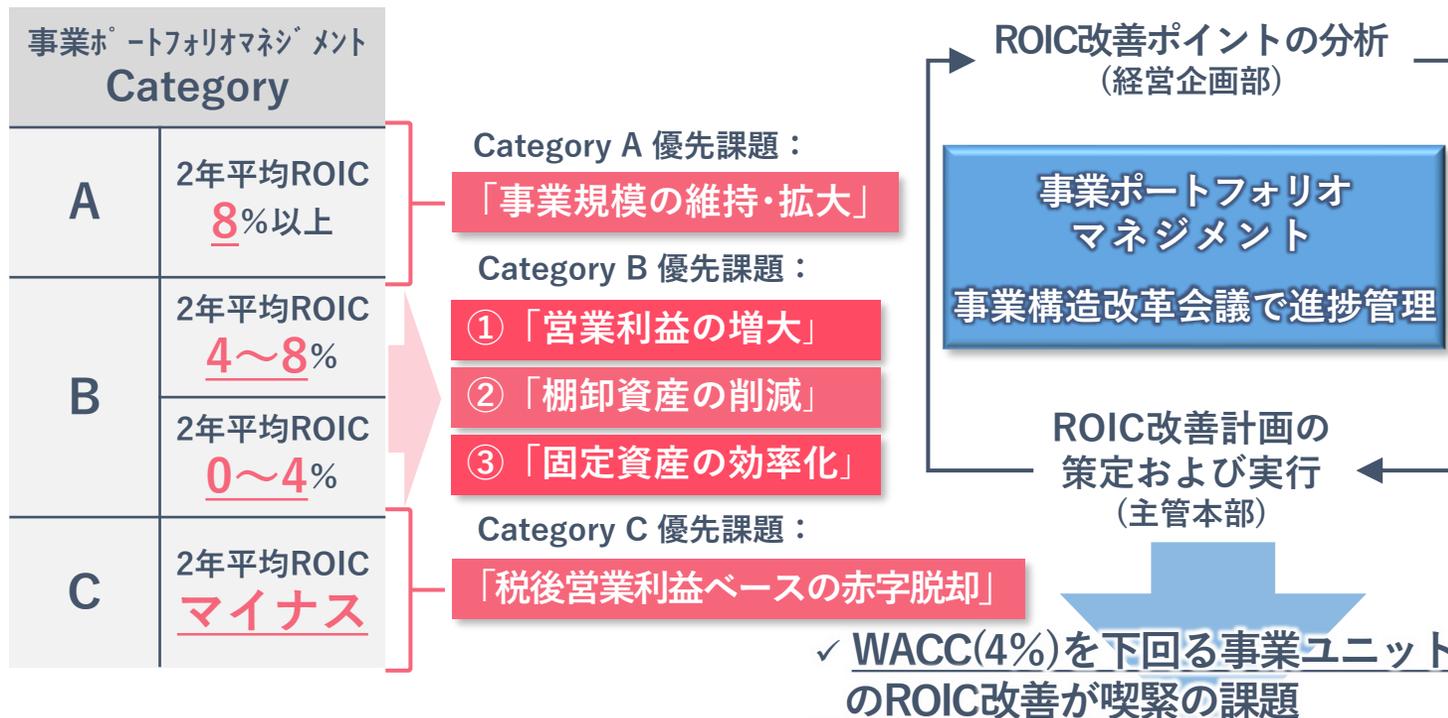
(旧)		(新)		(新)	
建築資材事業本部	住設建材事業部	建築資材・シビル事業本部	住設建材事業部	経営企画本部	経営企画部
	床・建装事業部		床・建装事業部		購買部
環境資材事業本部	インフラマテリアル事業部	高機能材事業本部	建築資材・シビル企画統括部		IT・DX戦略部
	アグリ事業部		高機能材事業部		新事業推進部 <b>(新設)</b>
高機能材事業本部	高機能材事業部	フィルム事業本部	アグリ事業部	新素材・新領域開発部 <b>(新設)</b>	
機能フィルム事業本部	包材事業部		包材事業部	人事総務部	
				経営管理本部	財務経理部
				生産本部	法務・コンプライアンス部
					8工場/1事業所
					生産企画部
				研究開発本部	設備技術部
					品質保証部
					研究開発部
				研究開発本部	知財部
					研究開発企画統括部 <b>(新設)</b>

# 4 事業ポートフォリオ

# 4 事業ポートフォリオ ～ROIC活用による事業ポートフォリオの高度化～



## 35事業ユニットに分類、 更にROIC水準のCategory別に改善分析を推進



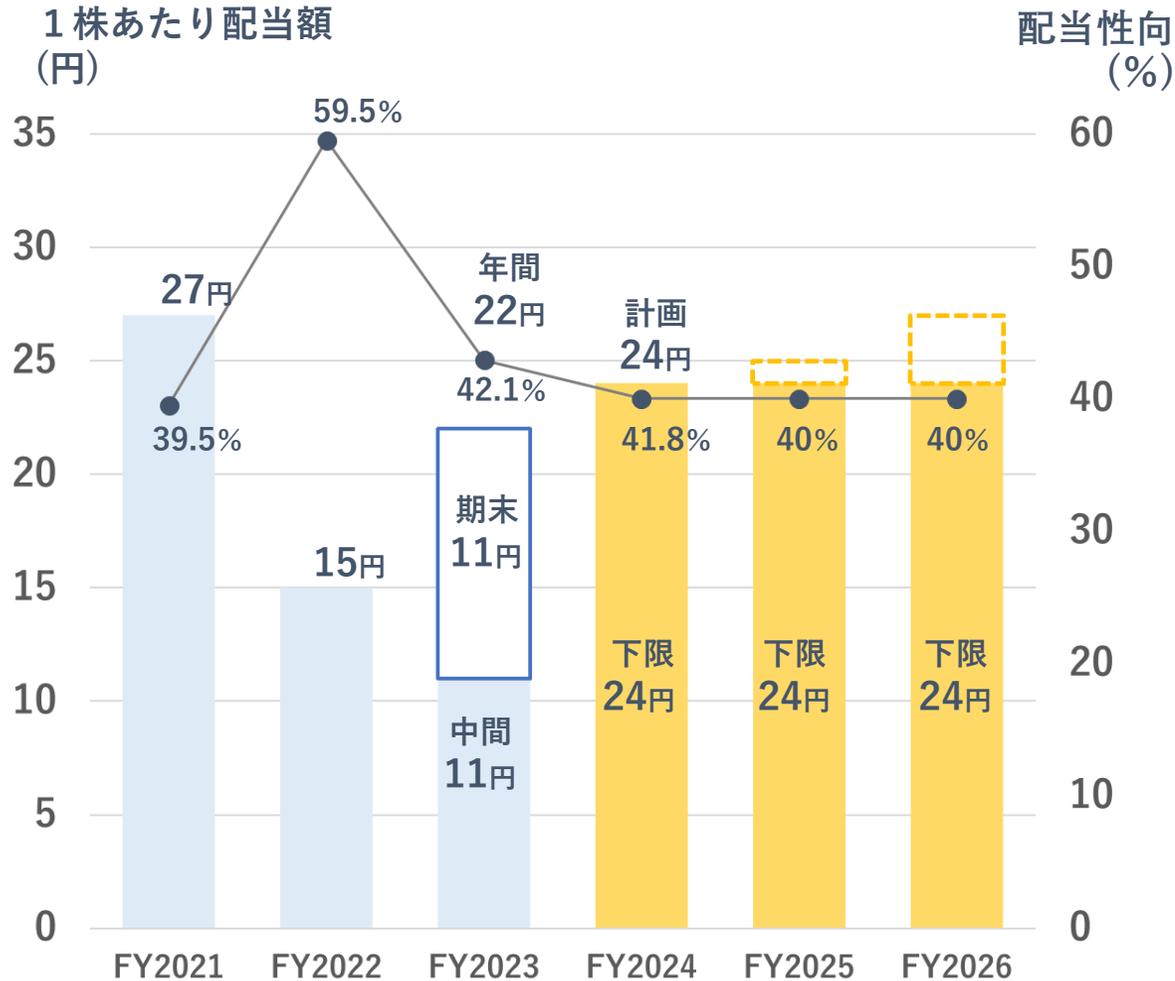
■ FY2026  
**全社平均ROIC 7.0%以上を目指す**

事業ポートフォリオマネジメントを高度化し、  
 将来連結純利益100億円の実現を目指す

Category	FY2026 目標	ROIC4%未満の事業は、事業構造改革会議を通して重点的に改善を断行。
Category A	ROIC 1%UP	3期平均ROICマイナスの事業は撤退を原則とし、各事業部からROIC黒字化計画の提出あれば、継続可否を判断。
Category B	<u>4～8%</u>	
	<u>0～4%</u>	
Category C	ROIC プラス化	

# 5 配当方針

# 5 配当方針



中期経営計画期間中は以下方針とする

1 配当性向 40%を目安とする

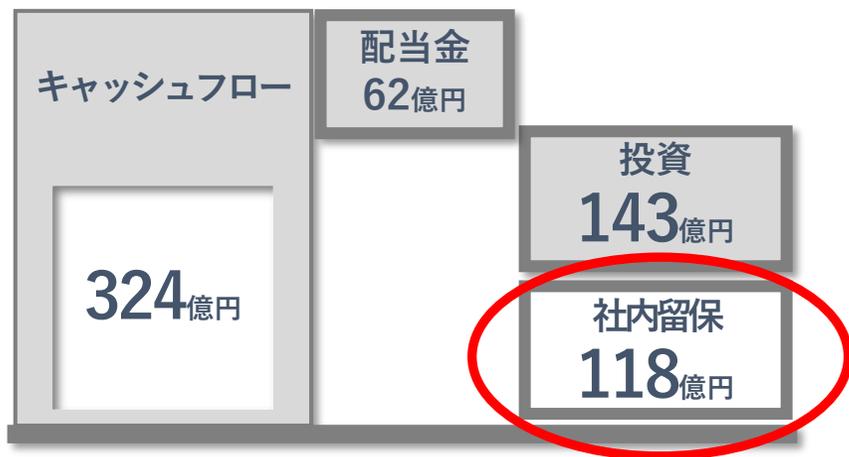
2 1株あたり24円を下限配当とする。

3 業績が単年度計画を上回る場合は、  
上方修正する。

# 6 財務戦略/成長投資戦略

## ■ 営業キャッシュフロー

◆ FY2021-FY2023



営業キャッシュフローを成長投資に使い切れていない。

◆ 中期経営計画 FY2024-FY2026



中計3年間の営業CFを配当金および事業構造改革のための成長投資に使い切る。

## ■ 特別投資枠

更なる成長投資及びM&Aが有益であれば、特別投資枠で積極的にキャッシュを使う。

投資枠300億円に  
プラス

特別投資枠  
(M&A等)

400億円

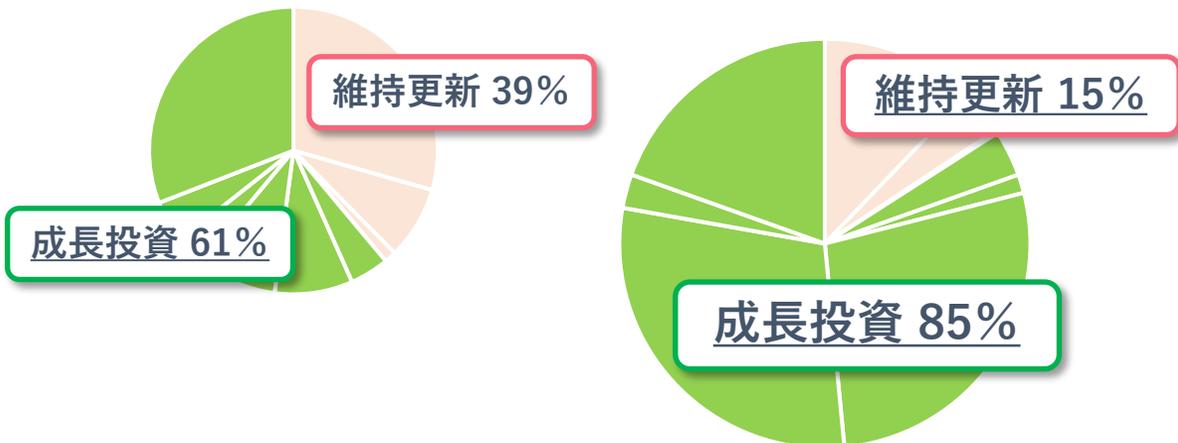
## ■ 設備投資目的の大幅なシフト

目的別比較

FY2021~FY2023



FY2024~FY2026



単なる維持更新の設備投資は極力減らし、合理化等の成長投資にシフトする。

維持更新枠

45億円

成長投資枠

255億円

+

特別投資枠  
(M&A等)

400億円

総投資枠  
最大700億円

## ■ 主な投資計画

- 事業構造改革 約15億円
- 増産・増強 約80億円
- 生産合理化 約60億円
- IT・DX 約30億円
- 研究開発 約55億円
- 維持更新 約45億円

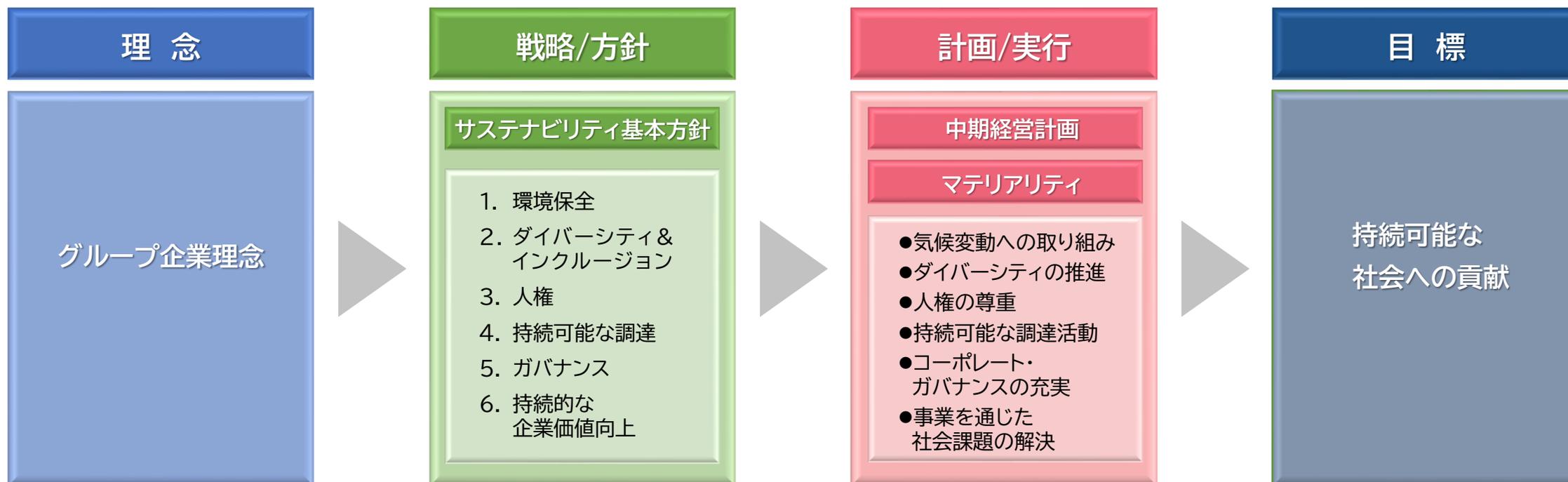
## ■ M&A(買収ターゲット)

買収ターゲット候補	
1. 石化メーカー事業再編対応型 M&A	● 大手石化メーカー再編に伴い外出しされる樹脂加工事業の獲得
2. 残存者利益獲得型M&A	● 残存者利益が見込める同業他社の買収
3. 技術獲得型M&A	● 新規分野への参入に貢献するコア技術の保有企業 ● バリューチェーン強化に資する樹脂加工技術保有企業
4. 海外事業拡大型M&A	● 海外売上高の拡大を効果的に推進可能な販売ネットワーク獲得 ● 海外技術・知財ライセンスの取得
5. 国内販売拡大型M&A	● 販路拡大に資する代理店、販売会社の買収

# 7 サステナビリティ

# 7 サステナビリティ\_サステナビリティの取り組み

- グループ企業理念に基づき、具体的に取り組む内容を明確にしたサステナビリティ基本方針を策定。  
(本基本方針は従前のサステナビリティビジョン「今日を支える 明日を変える」に替わるもの)
- マテリアリティは、社会的要請との整合及び事業戦略との連動が必要と判断し、環境/社会/ガバナンス(ESG)の観点から見直しを実施。新たなマテリアリティとして6項目を特定。
- マテリアリティは、各セグメントのアクションプランに反映し、持続可能な社会への貢献へとつなげ、当社の収益性と企業価値の向上を目指す。



# 7 サステナビリティ\_重点テーマ

重点テーマ	実施項目(アクション)	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	具体的内容	
気候変動	気候変動問題への対応 (TCFD)	①TCFD分析の実施および非財務情報開示の実施 ②CGC報告書でのコンプライの継続維持					
	温室効果ガス(GHG)排出量の削減(Scope 1,2)	排出量 74,200 (t-CO2)	77,400 (t-CO2)	76,400 (t-CO2)	75,400 (t-CO2)	①省エネ活動計画の完遂、②太陽光パネル導入の促進 ③再エネ電力の購入の検討、④CO2削減量の見える化	
	温室効果ガス(GHG)排出量の削減(Scope 3)	-	統一した算出方法が定まらないため目標未設定			-	①CAT 1、12の排出量の削減の実行 ②CAT5 事業活動から出る廃棄物の削減の推進
	廃棄物の削減・リサイクル (CAT5,12に関連)	廃プラ排出量(CAT5のみ目標設定)					①社内の廃材の他製品へのリサイクルの活用促進 ②使用済み製品回収～リサイクルの仕組みの検討
		480t	450t以下	410t以下	370t以下		
	新製品・新技術の開発 (CAT1,5,12に関連)	①3R + Renewableに貢献できる製品開発、技術開発 ②省エネ製品に寄与できる製品開発・技術開発 ③ISCC認証取得、マスバランス方式を活用した製品改良					
ダイバーシティ	多様な人材の活躍推進	①多様な人材が活躍できる社内風土の醸成 ②女性活躍の推進 ③人材多様化の更なる推進に向けた方針策定					
	グローバル人材の育成	①海外の新製品・新技術の導入、M&A、業務提携を担う人材育成の為、TKCI海外拠点、ITC海外拠点への派遣 ②海外派遣に向けた教育研修プログラムの充足および支援					
	働き方改革	①刈刈のついた在宅勤務の推進による多様な働き方の実現 ②DXツールの導入による業務の効率化および見える化 ③育児休暇や年休取得の促進					

社会的要請との整合及び事業戦略との連動を鑑み、ESG観点から新たなマテリアリティを6項目を設定。KPI目標の必達を目指す。

マテリアリティ項目	KPI項目名	FY2026目標	FY2023実績
事業を通じた社会課題の解決	環境配慮型製品の創出	上市件数：累計20件以上	11件
	新事業の推進(対FY2023)	売上高: 20%以上 (※1)	—
	新技術の獲得	国内特許出願件数：累計150件	55件(海外含む)
	新素材新領域の開発	開発件数：3件	—
気候変動への取り組み	Scope1.2 CO2排出量の削減	2018年度比 31%削減	32%削減
	多量排出事業からの脱却	産廃発生量：440t以下	480 t
	排出物削減の推進	リサイクル材に転用 500t以上	200 t
ダイバーシティの推進	女性管理職比率の向上	5%以上	3.2%
	リーダー職にいる女性比率	7%以上	5.6%
	人材多様化の更なる推進(外国籍雇用率)	28%以上	20.4%
持続可能な調達活動	CSR調査アンケートの実施	実施回数：1回以上/年	—
人権の尊重	従業員エンゲージメント肯定回答率	70%以上	59%
	安全災害度数率	0.9%以下	1.17%
コーポレート・ガバナンスの充実	重大なコンプライアンス違反件数	0件	0件

※1：新事業推進部の売上高、中計期間中の持分法化が見込まれるマーベリックパートナーズはタキロンシーアイ出資比率応分で算出